

# 鉄鋼新経営

厳しき増す市場に対応

——主力3事業を取り巻く市場環境から。の影は直接的にはないが、間接的には当社も影響を受ける。全社売上高の1割が来ている自動車向け、工作機械向けの需要も回復基調にある。当社のメインである土木建築機材事業は橋梁向けを主体とする免制震装置を手掛けており、近年は建築物向けへのアプローチも進んでいるが、建設現場の人手不足で工事の進捗に時



川金ホールディングス社長

鈴木 信吉氏

## 土木建築機材メンテ注力

間を要しており、また各種資機材価格の高騰で建築計画の見直し・延期・中止が相次ぐなど逆風が強い。産業機械事業は免制震用油圧タンパーや大型建設機械向けシリンドー部品、自動車防振向けをはじめとするゴム、プラスチック用射出成形機などを製造・販売しているが、前年並みにどま

要因。素形材はほぼ前期並み、産業機械は減収減益となったが、落ち込みは小幅にとどまった。——今期27年3月期の見通しはどうか。

鋼生産が不安定化したものの、日鉄・室蘭の復旧によって今期は安定生産が見込まれる。半導体関連向けが好調な素形材や、産業機械の業績が回復した場合、全社収益が計画を上振れる可能性がある。

——第5次中期経営計画の進捗状況を。『今期が最終年度である現行の第5次中期経営を展開する。土木建築機材や形状などを当社から積極的に提案するような意識改革を行い、これを実行できる技術力・提案力を備えた体制に切り替えていく。DX(デジタルトランスフォーメーション)やIoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)の活用も進める。』

「また、ソフトウェアサービスなどサポータービジネスを展開する。土木建築機

## 日本製造と協業推進

材についてはメンテナンス分野に力を注ぎ、これまで当社が納入してきた製品の維持・補修を実行するべく活動を強化する。この一環として、24年11月に橋梁工事や建築工事、補修工事の施工および管理を行う共成建設を川金コアテックが完全子会社化し、橋梁部材のメンテナンスや更新に係る技術力を高めるなど体制を整えてきている。

——素形材はどうか。『川口金属工業や特殊メタルでは温度変化に対する膨張率が低い素形材や複雑形状を可能とする鋳造製品を、また川金ダイカスト工業ではアルミのナノキャスト製法を活用した高付加価値製品を手掛けている。顧客への提案営業をより活発化して、採用実績を増やしていきたい。』

——設備投資計画、M&A案件はあるか。『素形材はグループ企業で増産体制を敷く一方で、老朽化設備の更新を行うため、工事期間中の納期管理を徹底しながら顧客に高品質製品を安定供給するための体制を整える。土木建築機材は建築物向けを主体に国内販売・輸出を促進するため川金コアテックの茨城工場で免制震装置の製造ラインを増設する。すでに建屋の基礎工事に着手しており、27年末をめどに稼働を開始する計画だ。』

——素形材はどうか。『川口金属工業や特殊メタルでは温度変化に対する膨張率が低い素形材や複雑形状を可能とする鋳造製品を、また川金ダイカスト工業ではアルミのナノキャスト製法を活用した高付加価値製品を手掛けている。顧客への提案営業をより活発化して、採用実績を増やしていきたい。』

——設備投資計画、M&A案件はあるか。『素形材はグループ企業で増産体制を敷く一方で、老朽化設備の更新を行うため、工事期間中の納期管理を徹底しながら顧客に高品質製品を安定供給するための体制を整える。土木建築機材は建築物向けを主体に国内販売・輸出を促進するため川金コアテックの茨城工場で免制震装置の製造ラインを増設する。すでに建屋の基礎工事に着手しており、27年末をめどに稼働を開始する計画だ。』

——素形材はどうか。『川口金属工業や特殊メタルでは温度変化に対する膨張率が低い素形材や複雑形状を可能とする鋳造製品を、また川金ダイカスト工業ではアルミのナノキャスト製法を活用した高付加価値製品を手掛けている。顧客への提案営業をより活発化して、採用実績を増やしていきたい。』